

第19回リバーフロント整備センター研究所報告会

企画グループ サブリーダー 後藤勝洋

平成23年9月2日（金）、科学技術館サイエンスホール（東京都千代田区）にて「第19回リバーフロント整備センター研究所報告会」を開催しました。

本報告会は、当センターの河川や湖沼、海岸などの水辺に関し、健全な水循環系の回復、災害に強靱な都市の形成、川を活かしたまちづくり、自然環境の保全と利用、河川生態の保全や回復、景観形成などに関する調査研究の成果と最近の話題を紹介し、河川技術者の啓発の場とすることを目的に年1回、「リバーフロント研究所報告」の刊行にあわせて開催しています。今年は19回目の開催となり、国土交通省や自治体関係者、学識者等、100名あまりの方々にご参加いただき、活発な意見交換がなされました。

本報告会では、静岡大学の加藤憲二教授をお招きし、「地下圏に広がるダイナミックな微生物の世界と水」と題してご講話いただき、その後、昨年度当センターで実施している研究成果から次の7題について発表が行われました。

○発表内容

1. 北九州市 紫川の生態系に配慮した河川改修 —河岸覆土の形状検討について—

要旨：紫川では、治水安全度を高めるため、下流部の河床掘削を行う必要があり、感潮区間における希少な動植物の生息・生育環境への配慮や、改修区間直上流に位置する民間所有の井堰の改築の考え方なども含めた河道計画を提案。

2. 多摩川中流域における礫河原再生手法の検討

要旨：かつての広大な礫河原を有していた河川環境の再生と樹林化の拡大抑制に資することを目的として行ってきた再生手法の効果等について、その後の経過を分析。

3. トキの野生復帰を支援する川づくり（天王川自然再生の合意形成と整備メニューの策定）

要旨：佐渡島における自然再生事業のモデル河川である天王川において、トキが飛来しやすい川づくりの具体的な整備メニューを検討。

4. 渡良瀬遊水地における湿地保全・再生のモニタリング計画

要旨：「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」に基づく、掘削による湿地保全・再生を遂行するため、モニタリング計画及びモニタリング結果を今後の掘削手法等へフィードバックする手法を検討。

5. セグメントと植生分布との関係分析

要旨：河川水辺の国勢調査の植物調査データを基に、日本全国の直轄管理河川における植物相・群落からみたセグメントの特徴について分析。

6. 多自然川づくりの先駆的技術の導入支援について

要旨：河岸・水際部及び護岸の計画・設計に当たって、できる限り護岸を設置しないこと、設置する場合においても護岸の前面に自然な河岸・水際部を形成するなど、河川景観や自然環境の機能を確保するという多自然川づくりの基本的な考え方を検討。

7. 地域活性化等に資する河川整備手法構築に関する検討について

要旨：国内外における民間活力を導入した様々な先進的な事例を調査し、地域活性化等に資する新たな河川整備の推進手法について検討。

今回の発表内容を含めた平成22年度の調査研究の成果「リバーフロント研究所報告 第22号」は、当センターホームページ「リバーフロント研究所報告」(<http://www.rfc.or.jp/rp/index.asp>)にてダウンロードが可能ですので、是非ご活用下さい。

皆様からいただいた様々なご意見を踏まえて、今後も河川に係る諸問題への調査研究等を通じて社会への貢献に取り組んでいきたいと考えております。



加藤教授のご講話



当センター職員による発表